

平和で豊かな沖縄県を目指す情報誌

無料

ご自由にお持ち
帰り下さい

2018.8

No.9

沖縄協会だより



平和の絵―「戦争と平和」

20点連作―第14作

西村計雄 作

怒濤と花 宮古・東平安名岬
300号

176×304×6.5cm

沖縄
平和祈念堂
所蔵絵画紹介

〈制作意図〉 嵐に猛る波濤、その深い青磁色のうねりは、白磁色に砕けて美しい波紋を描く。この厳しい自然をたくましく生き抜く島びとたち、嵐に耐えて咲き競う白百合や月見草、浜ひるがおなどの花々がやさしさを育んできた。“静と動”の両極面が恬淡とした筆致の中にたくまず表現され、それはまさに島びとの気骨と博愛に通ずるリズムと抒情を湛えている。(昭和58年1月14日寄贈)

西村計雄(明治42年・北海道生まれ)

東京美術学校卒、藤島武二に師事。1943年文展(現・日展)特選。戦後早稲田中学校と高等学校の教師を勤め、51年に42歳で単身渡仏する。ピカソの画商カーンワイラー氏との出会いを契機に、53年よりパリを中心にヨーロッパ各地で個展を開催。その作品は、フランス国立近代美術館やパリ市美術館に買い上げとなった。フランス芸術文化勲章、パリ・クリティック賞、勲三等瑞宝章、他受賞多数。北海道岩内郡共和町名誉町民、共和町立西村計雄記念美術館開館。2000年12月4日没。

沖縄協会は、沖縄が本土に復帰するまでの間、各種の援護活動を行った特殊法人南方同胞援護会(昭和31年～47年5月)の後を受けて、昭和47年9月20日に設立された内閣府所管の公益法人です。新たに設立した財団法人沖縄協会は、南方同胞援護会の実績と経験を活用して、沖縄の振興施策に積極的に協力し、平和で豊かな沖縄県の建設に寄与してまいりました。平成23年(2011)4月1日、沖縄協会は内閣総理大臣より公益財団法人として認定を受けて「公益財団法人沖縄協会」として新たな一歩を踏み出しました。これからも、沖縄県の健全な発展と幸福な社会形成に役立つ事業を行いながら、沖縄平和祈念堂の管理運営をすることで、平和で豊かな沖縄県の建設に貢献していきます。

公益財団法人 沖縄協会



沖縄全戦没者追悼式前夜祭の始まり

照喜名朝一

重要無形文化財「琉球古典音楽」保持者(人間国宝)
琉球古典音楽研究朝一会・総帥

■沖縄全戦没者追悼式前夜祭

琉球古典音楽合同献奏の琉歌

天皇陛下が皇太子時代に

お詠みになられたお歌(琉歌)

「ふさかいゆる木草めくる戦跡

くり返し返し思ひかけて」(瓦屋節)

外間守善氏の琉歌

「島守らと思て散り果てし哀れ

鎮魂の願い肝に染めら」(金武節)

琉球古典音楽全流派の合作琉歌

「波の声もとまれ風の声もとまれ

静かなる御代のお願いさびら」

(辺野喜節)

1978年(昭和53年)10月1日に沖縄平和祈念堂が開堂された。その際、私は平和祈念公園で行われた開堂祝賀会に舞踊地謡で参加したが、堂内のオープンの式典では洋楽(沖縄平和祈念像讃歌)の演奏があり、続けて沖縄の古典音楽が演奏され、思っていた。沖縄の地に建立された平和祈念堂だからこそ古典音楽、三線の音が聴こえてくると思ったが聴けなかった。沖縄の音楽、それは平和の象徴と私達は教えられ、一生懸命三線を弾いてきたのに肝心の平和祈念堂が出来て、そのなかで三線の音が聴けないことに一抹の寂しさを覚えた。開堂当時、参観者は観光というより参拝が多かった。拝んでいる人達に「ウマウトゥティ、サンシンヌウトゥヌナガリレーヤー」(ここで、三線の音が流れたらな)と言う気持ちになった。

是非とも三線をここで奏で、古典音楽が本場の平和の象徴として演奏され続けられ、平和祈念像、平和祈念堂、そして、歌三線の音も永遠に残る。常にその思いは私の脳裏にあった。そこで、自分自身で堂内での献奏が出来ないだろうかという方法を模索した。私はこの強い思いを平和祈念堂を建設した(財)沖縄平和公園建設協会の金城武信沖縄事務局次長に申し出たら、金城氏からは、上司である古田嗣延協会専務理事へ直接伝えるよう言われたので、1979年(昭和54年)2月9日、沖縄平和公園建設協会(以下協会)主催の「沖縄平和祈念チャリティー絵画展」に出席のため来沖した古田氏に慰霊の日に献奏をお願いした。古田氏からは慰霊の日には他の行事が決まっているから出来ないとお断りされた。しかし、私はこう訴えた。平和祈念堂で、沖縄の平和の象徴である三線の音が聴こえない。先輩達に「三線は平和の象徴だ、大事にして頑張れ」と励まされてこまど来たからこそ、私達は三線を大事にし、三線を奏で続けこまど来たというのに、平和祈念堂が完成して、そこで音が出せないのはとても悲しいことだ。それに對して古田氏から慰霊の日の前日に行う沖縄全戦没者追悼式の前夜祭の企画があり、琉球古典音楽三流派による合同で演奏が出来よう方法を考えるなら可能との回答を得た(照喜名氏の進言から協会では4月より前夜祭実施に向けて本格的な準備が始まる)。その後、協会から前夜祭の中心となる琉球古典音楽献奏についての打合せ会の連

絡があり、私の稽古場で行われた。打合せ会の冒頭、稲嶺成珍協会沖縄事務局次長から「古典音楽をもつて慰霊の最大の行事にした」との趣旨説明が述べられた。献奏曲の琉歌は皇太子殿下(陛下)の琉歌と外間守善氏(協会評議員、法政大学教授)の新作琉歌が決まっていた。「皇太子殿下が摩文仁の全滅家族の屋敷跡に心痛められてお詠みになられた琉歌がふささしいのではないかと外間氏が古田氏に推薦したようだ。また、皇太子殿下の琉歌に付ける曲は、最初から協会より「瓦屋節」で演奏してほしいと指示された。当時の琉球古典音楽界は、湛水流、安富祖流、野村流の三流派の合同演奏は全く考えられないことだった。そのため協会から琉球古典音楽安富祖流統協会名誉会長の宮里春行先生と私に合同演奏に向けて三流派の取りまとめをやってほしいと依頼があった。事務方の調整役を引き受けた私は、三流派の中で後輩の宮里先生と私が直接呼びかけると先輩の先生方に角が立つので、マスコミから琉球新報社の嶋袋浩編集局長に呼びかけ人になってもらい首尾よく合同献奏の運びとなった。打合せ会の協議で、皇太子殿下の琉歌は「瓦屋節」、外間氏の琉歌は「金武節」に付けると決まったが、先生方から古典音楽界の慣例で3曲が良いということになり「辺野喜節」を追加することになった。ただ、この辺野喜節に付けた琉歌は出席した先生方の合作とあるが、実は、宮里先生がこの琉歌の下句をその場で作詞し付けられたもの。協会の記録では、出来上がった琉歌

の内容が世界平和を祈るのにふさわしいと先生方全員が同意したとあるそうだった。そのため合作となったと思う。前夜祭本番に向けて私の稽古場に2度ほど先生方が集まり合同で音合わせを行った。演奏には各流派の主張もあり、なかなか合うものではなかったが、宮里先生より「合同で歌う意味をちゃんと説明し、一つにまとめるようにしなさい」と言われた。皇太子殿下の琉歌を歌うことへの強い思いが先生方のなかにもあり、音合わせを重ねることが出来た。そして、前夜祭当日も控室で何度も合わせて式典に臨み、無事合同献奏を終えた。私も最初から演奏に加わり、それから20回目までは演奏した。これまで陛下に6回謁見させて頂いたが、陛下の琉歌を前夜祭で続けて演奏していることをお伝えしたことがある。この前夜祭は毎年続き今年で40回を数えた。沖縄の芸能というのはいすこい。それはやっぱり三線の力だと思ふ。私は、前夜祭が今も続いていることに對してすごく誇りに思ふし、本当に感謝している。最初から関わった気持ちもあり、前夜祭をこれからも続けてほしい。献奏曲に付けられた琉歌を思うに、現在では、ウチナーグチ(沖縄語)の言葉もなくなっていく中で、その言葉はもう琉歌に残るのではと思う。歌とあわせて残しておけば、その意味はどういう歌なのかと考へたり、またそれを聞く人も、あるいは歌う人も現れるかも知れない。そういうことを考へたら琉歌を歌い続けることはとても大事であり、伝統芸能を継承するための力となる。前夜祭で演奏される音楽も舞踊も沖縄の貴重な無形の文化財だ。無形だからこそ続けることに意味がある。沖縄の芸能のために前夜祭は続けてほしい。

トピックス

天皇皇后両陛下の来室



沖縄県立現代美術館

平成30年3月27日、天皇皇后両陛下が「平成30年沖縄県地方事情御視察」のため来沖され、沖縄平和祈念堂を訪れた。両陛下は平和祈念堂に度々訪れており、前回26年6月の「対馬丸犠牲者の慰霊」以来の行幸啓となった。

平和祈念堂では両陛下を野村一成当協会会長と上原良幸副会長、新垣昌頼専務理事がお出迎えし、野村会長のご案内により堂内の沖縄平和祈念像を参拝された。

両陛下は出発に際し、前室ホールに整列した当協会職員一人一人にお声をかけられ、そのあと、国立沖縄戦没者墓苑の参拝に出席された。

* * *

沖縄関係団体等助成事業―沖縄豆記者団取材活動に対する協力

当協会が沖縄関係団体助成事業の一環として毎年協力している沖縄豆記者団(主催)沖縄県豆記者交歓会)は7月30日



宮内庁提供

* * *

から8月4日にかけて取材活動を行った。今年の第57次沖縄豆記者団50人小学5年生から中学3年生)は7月30日、羽田空港到着後、東京御所を訪れ、皇太子同妃両殿下にご接見した。7月31日午前中は世田谷区を訪問し、保坂展人世田谷区長、堀恵子教育長、三井みほ区議会議員を表敬訪問取材し、午後は都内を見学取材した。8月1日午前中は国会議事堂見学を行い、午後からは沖縄担当部局を訪ね取材活動を行った。質疑応答では、豆記者が沖縄政策について質問し、馬場竹次郎内閣府大臣官房審議官がスライド資料を使ってわかり易く丁寧な回答をした。続いて、総理大臣官邸を見学し、安倍晋三内閣総理大臣を表敬訪問した。夕方には在京沖縄出身学生と懇談会を行った。2日からは北海道に移動し根室市等で北方領土取材を行い、4日に取材活動を終了した。(同じく取材活動を行っている函館豆記者とは東京御所での皇太子同妃両殿下ご接見、総理表敬、国会議事堂見学を一緒にに行い交歓交流している)

安倍晋三内閣総理大臣の来室

6月23日、安倍晋三内閣総理大臣が沖縄平和祈念堂を訪れた。安倍総理は、沖縄県主催平成30年沖縄全戦没者追悼式に参列のため来沖し、国立沖縄戦没者墓苑の参拝に続いて平和祈念堂に到着された。

平和祈念堂では安倍総理を野村一成当協会会長と上原良幸副会長、新垣昌頼専務理事が出迎えた。

安倍総理は出発に際し、正午の黙祷の後に行う平和の魂―放蝶セレモニーに参加する沖縄平和祈念堂大使や児童生徒ら一人一人に気さくに声をかけ握手を交わし、そのあと記念撮影に応じた。



平成30年度勉学支援生の決定

当協会が実施している「沖縄青少年勉学支援事業」は6月30日に応募が締め切られ、7月12日、当協会東京事務所、所長、支援金審査委員会が開かれ、厳正慎重な審査を行った結果3人を新規の勉学支援生にすることが決定した。本年度の勉学支

援生は前年度からの継続者4人を加え、合計7人。一人あたり年額60,000円の勉学支援金が給付される。昭和49年にはじまった本事業は平成29年度末までに延べ1,129人の沖縄青少年に支援を行い、503人が卒業し習得した資格や技術を活かして幅広い分野で活躍している。

* * *

金城芳子基金の助成対象者を決定

4月23日、当協会が主催する第26回(平成30年)金城芳子基金(沖縄女性のため、社会的に意義のある活動や研究調査活動に対する助成事業)は運営委員会(山井晶子委員長)を開催し、応募があった11件の中から、宇根悦子氏の「介護保険導入前と導入後の高齢者のくらし比較」を助成対象に決定した。5月11日、県庁記者クラブで贈呈式が行われ、助成金30万円が贈られた。

* * *

「高良義雄基金」の増額

8月8日、勉学支援基金「高良義雄基金」を設置している高良義雄さんから指定寄付として100,000円が寄せられた。これにより「高良義雄基金」は3,600,000円となり、これで「働きながら学ぶ沖縄青少年支援基金」の総額は67,500,000円となった。

* * *

沖縄平和祈念堂における平和学習

沖縄平和祈念堂には年間多くの小学校から高等学校の児童生徒が訪れ、沖縄戦記録映画の鑑賞、平和集会、戦争体験者講話、平和祈念セレモニーやコンサート等を行っている。(平成29年度は47,780人)

その一部を紹介する。

平成30年4月27日、那覇市立備前小学校(53人)が訪れ平和集会を行い、生徒全員による平和宣言が読み上げられた。

那覇市立備前小学校6年生

「平和宣言」

73年前に起こった出来事小さな島、沖縄には大きな戦争それは、人を鬼にしたそれは、人を傷つけた人間から人間らしさをなくしてしまったそして今平和になった今過去のあやまちを振り返って誓う人間が互いに争う無意味で、むなし戦争を繰り返すまい戦争がどんなもので、何をもたらしたのか、忘れまいそして、平和という言葉のとてもなく、重い意味を学び、考え、伝えよう



我らの手で永久の平和を築きあげることを我らの手で永久の平和を伝えることを沖縄の心に誓う

平成30年5月18日、備前市立備前中学校(102人)が訪れ平和集会を行い、生徒全員による平和宣言が読み上げられた。

平成30年度備前市立備前中学校

「平和へのメッセージ」

エメラルドグリーン色の海いきものの宝庫ともいわれるここ沖縄で地上戦が行われた戦場になり出された私たちと同年代

お年寄りや子供、住民の方々24万人もの尊い命が失われた海は荒れ美しい自然は滅びた戦争によって幸せだった人生がそこで終わる

戦争は同じ人間同士が殺しあう地上戦から73年がたった今まだ僕たちのものに平和は築かれていない過去を変えることはできないでも未来は変えられる

一つ「今、平和に暮らせていることに感謝すること」一つ「平和の大切さを訴えること」

一つ「後世(こうせい)に戦争の悲惨さを伝えること」今、僕たちは明るい未来を生きています

そして今を生きているからこそ感じる事ができるヌチドゥ、タカラ

命こそ宝二度と同じ過ちを繰り返さないために

この沖縄の思いをしつかり伝えていきます平成30年5月18日

岡山県備前市立備前中学校3年生一同

■ 沖縄協会主催・共催行事

第38回こどもまつり

「こども琉球芸能奉納」

こどもの日の5月5日、第38回こどもまつり「こども琉球芸能奉納」を開催した。子ども達の健やかで心豊かな成長を願い、芸能をとおして平和の尊さを考え学ぶことが目的。平和祈念堂の前で3歳児から小・中・高校生に沖縄県立芸術大学音楽学部琉球芸能専攻在学学生・OB・教員が琉球舞踊や器楽合奏・琉球古典音楽の数々を奉納献奏した。出演者101人と観衆をあわせた約500人が、戦没者に思いを寄せ、世界の恒久平和を願った。



※ ※ ※

沖縄平和祈念堂「浄め」

6月15日、沖縄平和祈念堂恒例の沖縄平和祈念堂「浄め」が行われた。この浄めは、6月23日「慰霊の日」と沖縄全戦没者追悼式として、6月22日に平和祈念堂で行う当協会主催「沖縄全戦没者追悼式前夜祭」を厳粛な気持ちで迎えるために実施するもの。毎年慰霊の日の前と年末の2回実施している。

今年も沖縄バス(株)のバスガイドと沖縄県芸振興センターの職員・講師・研修生他が皆さん、そして平和祈念像の制作に従事した系数政次さん(沖縄県立芸術大学美術工芸学部工芸専攻漆芸分野教授)が参加され、平和祈念堂管理事務所職員とあわせて29人で作業を行った。

系数さんと振興センターの皆さんには、作業にあわせて平和祈念像上部を中心に表面の現状を確認してもらった。また、バスガイドと他の振興センターの皆さんは、龍の彫刻から台座を白い布で丁寧にふき払い、修学旅行や各種団体から奉納された折り鶴・平和宣言などを整理した。

折り鶴の一部は地元糸満市内の多機能型事業所に提供し、再生紙の資材として活用されている。

参加者は戦没者への深い思いと世界の恒久平和を願い、平和祈念像全体の埃を払い浄めた。



※ ※ ※

平成30年度沖縄全戦没者追悼式前夜祭

6月22日、当協会は平成30年度沖縄全戦没者追悼式前夜祭を開催した。この行事は、慰霊の日と沖縄県が主催する沖縄全戦没者追悼式をより意義あらしめるため、沖縄県(二財)沖縄県遺族連合会(公財)沖縄県平和祈念財団の共催を得て毎年開催している。当日は、県民をはじめ沖縄県遺族連合会や日本遺族会の関係者、各関係機関の代表など約400名が参加した。今回は特別に、福井県内閣府特命担当大臣(沖縄及び北方対策担当)・島尻安伊子内閣府大臣補佐官、日下正周内閣府政策統括官(沖縄政策担当)の方々も参加した。

第一部式典では「鎮魂の火」の献火、「平和の鐘」の献鐘を合図に参加者全員で黙祷を捧げた。

主催者を代表して野村一成当協会会長が「私達は現在の生活が幾多の尊い犠牲の上に築かれたことを決して忘れず、戦争への反省と世界平和への決意を新たに、戦没者追悼の象徴である沖縄平和祈念堂から全世界の人々に、恒久平和の実現を訴え続けていくことを誓う」と鎮魂(しづたま)のことを述べた。

第二部は、琉球古典音楽・全流派の合同献奏や琉球舞踊家による奉納舞踊が行われた。



※ ※ ※

慰霊の日

「平和の魂ーオオゴマダラ」の放蝶

6月23日、当協会は戦没者への鎮魂と平和の願いを込め、沖縄平和祈念堂の玄関からオオゴマダラ蝶60匹を摩文仁の空に放った。

当協会では、戦後60年事業として平成17年11月に「清ら蝶園」を建設。ギリシャ語で蝶のことを「バシユケ(魂の意)」ということから、蝶園で平和の「魂」としてオオゴマダラを育て、戦没者を追悼し世界平和の実現を祈る平和祈念像の使者として慰霊の日に放蝶している。今年で13回目を数える。

当日は、沖縄平和祈念堂大使をはじめ、ガールスカウトの児童生徒など関係各位をあわせて30人が参加。はじめに、正午に合せて平和の鐘を打ち鳴らし参加者全員で戦没者へ黙祷を捧げた。そして、子ども達が手に持つ蝶を一斉に放し、放たれた蝶は美しく摩文仁の空に舞い上がった。

※ ※ ※

※ ※ ※

めちぬぐすーじさびらコンサートin摩文仁

「第3回モーツァルト・レクイエムコンサート」

6月17日、平和の礎に刻銘された24万余の人々の追悼と恒久平和の祈りを世界に発信する、めちぬぐすーじさびらコンサート in 摩文仁「第3回モーツァルト・レクイエムコンサート」(主催:レクイエムコンサート実行委員会、共催:沖縄県立芸術大学、沖縄協会)が沖縄平和祈念堂で開催され、約300人が訪れた。

沖縄戦後、「生き残った我々が元氣を出して頑張ろう」と励まし、勇気づけ、沖縄の復興に尽力した小那覇舞天(小那覇全孝)氏の言葉「めちぬぐすーじさびら(命のお祝いをしましよ)」をタイトルに、あらためて戦没者に深く思いをいたし、戦争の地のない平和な沖縄に向けて努力していく決意を込めて開かれた。

コンサートは、J.S.バッハの管弦楽「G線上のアリア」で開幕し、続いてモーツァルトの「レクイエム」と「アヴェ・ヴェルム・コルプス」が演奏された。

厳かに奏でる県立芸大オーケストラ、堂内に響き渡る4人の声楽家と沖縄レクイエム合唱団の計76人の演奏に聴衆は深く魅了され、感動とともに惜しみない拍手を送った。



■ 応募案内

沖縄平和祈念堂改修工事に関するご寄付について

開堂から40周年を迎える沖縄平和祈念堂では、現在、経年劣化による改修工事を頻繁に実施しております。今後さらに工事の必要が考えられますので、多くの皆様にご賛助を賜いますようお願い申し上げます。

※詳細は「公益財団法人沖縄協会」のホームページに掲載予定

※詳細は「公益財団法人沖縄協会」のホームページより

第40回(平成30年度)沖縄研究奨励賞推薦応募案内

本奨励賞は沖縄を対象とした将来性豊かな優れた研究(自然科学・人文科学・社会科学)を行っての新進研究者又はグループの中から、受賞者3名を選考し、奨励賞として本賞並びに副賞として研究助成金50万円を贈り表彰するものです。

